

『つべこべ言わずやりなさい!』

武庫川女子大学附属高等学校 二年 山本 裕麻

私は言いたい。同じ年頃の人達に。「つべこべ言わずやりなさい!」と。

今、テレビや週刊誌をにぎわす話題。高校生のおじめ・万引き・喫煙・援助交際・リンチ・自殺……。想像力に欠ける私には理解できない行動ばかりだ。でも、ひとつ言えることは、きっとこの人達には夢とよべる目標が無いのではないかと? という事。いいえ。無いのではなく、見て見ぬふりをしているのではないかと思う。やりたいけど: やってみたいけど: そんな事を人に言うのは恥ずかしい。かつこ悪い。私には無理。みんなに笑われそう。自分勝手に理由を付けて、自分がやりたい夢を心の中に封印してしまっているのではないかと。そして、そのうさを晴らすかのようにこのような行動に出ているのではないかと。

幼稚園の子供に「将来何になりたいか?」を質問すると、必ず「私はケーキ屋さんになりたい」「僕は映画監督」「サッカー選手」と目を輝かせ、具体的に将来の夢を語る。それなのに、高校生にもなると現実を知るのが、「お金持ちになりたい」とか、「手に職をつけたい」とか目標がぼやけてしまい、「本当にやりたい」事が、そのために「やらなければならぬ」事になってしまっているように思える。それが悪い事だとは言えないが、「やりたい」と「やらなければならぬ」とではモチベーションが全然違ってくると思う。

小学校の時、いくつかの職業の中から各自が一番興味のある職業を選び授業を受けた。その頃、まだ将来何になりたいかなど全く考えていなかった私は、授業内容が楽しそうなことと、三歳からバレエを習っていたこともあって「歌って踊ろう!」という劇団の方の授業に参加した。その時の授業がとても楽しく、こんなに私をウキウキさせてくれ、その上、観ている人も楽しくしてしまう職業って凄い! 私もこんな職業に就きたい! と単純に感動し、これが私の夢となった。夢とは、自分の心が躍り、自分自身が感動できる事が重要なのではないかと思う。しかし、最近、人に夢と感動を与える厳しさ、努力の必要性を知り、自分が楽しいだけではやっていけない事も悟った。夢という目標を叶えるためには、必ず努力というとてもなくめんどくさい厄介な試練が必ず付いてくる。しかし、それが本当に自分のやりたい夢であるならば絶対に乗り越えられるはずである。

今の私の試練は食欲である。「人に夢を与えようとしている人がそんなに太っていて、どうして人に夢を与える事が出来るの!」、バレエの先生の声が胸に刺さる。しかし、私はこの食欲に負け、一度だけ先生に「私バレエもダンスも辞めます!」と自ら夢を捨てた。小学校から毎日毎日レッスンと勉強に追いまわされ、なかなか遊びにも行けなかった。レッスンがなくなれば時間にも余裕ができ、ゆっくり勉強も出来る。遊びにも行ける。好きなものも好きなだけ食べられる。私の人生って最高! のはずだった。しかし全然楽しくなかった。心に大きな穴が開いたみたいでつまらなかった。何となく落ち着かず勉強も集中できない。大好きなチョコレートも太るのが気になつて食べられない。何より悲しかったのは夢が無くなったこと。目標が見当たらないこと。努力して叶わなかった夢はなく、自ら夢を捨てた自分が情けなかった。しばらく

自分の心と相談してみた。やっぱり諦められない。諦めたくない。もう一度頑張ってみよう! そう決めた瞬間、沈んでいた心が一気に活動を始め、みるみる力が湧いてきた。知らぬ間に顔が笑顔になっていた。ダラダラだった体が元氣よく動き、先生に自分の気持ちを素直に伝えられた。先生は一言だけ:「つべこべ言わずやりなさい!」この言葉が本当にうれしかった。

今の夢が叶うかどうかは分からない。でも、頑張ってみようと思う。そして、もし今の夢が叶わなかったとしても、別の形で、人を夢の世界に案内し、幸せと感動を与えられる職業に就きたいと思う。夢を諦める悲しさと夢を持つ幸せを知った私は少し強くなれたような気がする。

人はいろいろ理由をつけて苦しみから逃れようとするけれど、夢を持つということ、つべこべ言わずやり続ける事なのだと思った。本当にやりたいことがあるなら、人になにを言われても、どんなにつらくても、泣こうがわめこうが、地団太を踏んでもやり続ける事が大切だと思う。まだ若い私達は、夢に向かつて、まず目の前にある試練をひとつずつ乗り越え、少しずつでも前に進む。夢があれば非行に走る暇などない。

夢は叶えるものと言う人もいるけれど、私は叶えられなくてもいいと思う。叶わなかったとしても、努力したことは無駄にはならない。夢は持つ事によって人を成長させ強くさせる。そして次の夢への糧となるのだから…。